

「令和3年度 全国学力・学習状況調査」結果について

1 実施概要について

(1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上
- ②教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立
- ③児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に活用

(2) 調査の対象及び内容【令和3年5月27日（木）実施】

- ①各小学校6年生及び各中学校3年生の全児童生徒が対象
- ②調査内容
 - ア. 国語、算数・数学の学力調査
 - イ. 児童・生徒の学習状況等に関する質問紙調査
 - ウ. 学校に対する質問紙調査

(3) 実施の状況（公立の実施学校数と児童生徒数）

①全国の状況

○小学校等

- ・国語：18,857校 993,975名
- ・算数：18,854校 994,101名

○中学校等

- ・国語：9,319校 903,157名
- ・数学：9,316校 903,253名

②本県の状況

○小学校等 225校（小学校221校、義務教育学校前期課程3校、特別支援学校小学部1校）

- ・国語：8,032名
- ・算数：8,033名

○中学校等 92校（中学校86校、義務教育学校後期課程3校、特別支援学校中学部3校）

- ・国語：8,143名
- ・数学：8,143名

2 学力調査の結果（本県における各教科の平均正答率）

(1) 小学校6年生 ※数値は正答率%（カッコ内は全国平均）

国語	65 (64.7)
算数	68 (70.2)

(2) 中学校3年生 ※数値は正答率%（カッコ内は全国平均）

国語	66 (64.6)
数学	56 (57.2)

3 県教育委員会のコメント

◆学力調査について

国語については、小・中学校ともに全国平均正答率を上回り、特に中学校において顕著でありました。算数・数学については、中学校では改善の傾向がみられるものの、小・中学校ともに課題が残る結果となりました。学力向上に向けた取組みを更に充実させていく必要があると考えます。

<国語> 主語と述語の関係を捉え、短文の意味を正確に理解することや、自分の考えを相手に効果的に伝わるように書く力は身につけていました。一方、文章全体の構成を捉え、その要点をつかむことには課題が見られました。授業において、目的を明確にして情報を整理しながら文章を読んだり、必要感をもって文章全体の構成を捉えたり要旨を把握したりすること、また、興味をもった語句について理解を深め、語彙を豊かにする学習活動を充実させる必要があると考えます。

<算数・数学> 資料やグラフ・表から必要な情報を読み取ったり、速さや道のりを基に時間を求める式に表したりするなどの力は身につけていました。一方、事柄が成り立つ理由について根拠を明確にして説明すること、図形について成り立つ性質を数学的に表現することには課題が見られました。授業において、複数の単位量を具体的な場面と結びつけながら比べたり、ICT機器の活用により図形を動的に観察することを通して図形の性質を予想・検証したりすること、また、事柄が成り立つ理由等を記述して説明し、理解を深める学習活動を充実させる必要があると考えます。

◆学習状況調査について

新学習指導要領の実施に向けて、主体的・対話的で深い学びを推進してきたことにより、各学校では、話し合う活動の充実が図られ、児童生徒が自らの学びの過程を実感しながら学習している様子が窺えます。

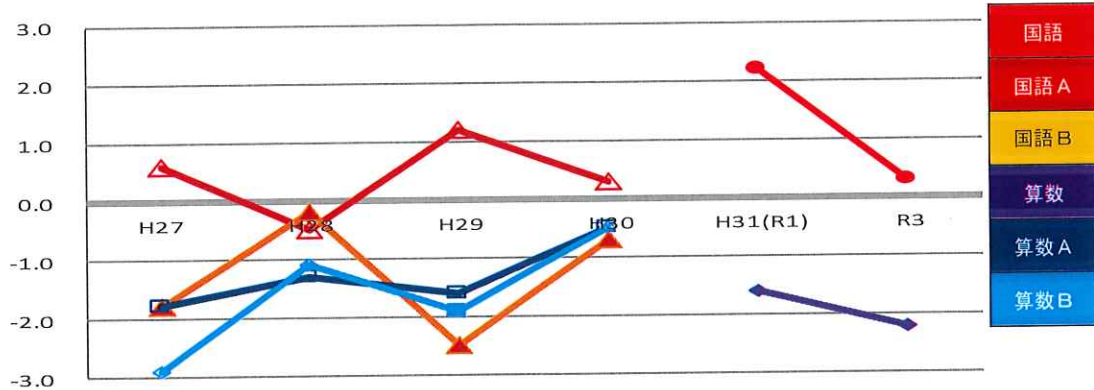
<児童生徒質問紙より> 自尊感情や規範意識が高いこと、地域行事に参加する児童生徒も多く、地域と一体となり子どもを育てていることがわかります。授業については、課題解決に向け話し合う活動に積極的に取り組むことを通して、自分の考えの深まりや広がりを実感できている児童生徒が多く、これまで取り組んできた探究型学習等の成果が表れています。また、算数・数学の勉強が好き、授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合が前回の結果を上回りました。このことを確かな学力の育成につなげていく必要があると考えます。

<学校質問紙より> 授業等で話し合ったり発表したりする活動を取り入れ、児童生徒の主体性や他者と協働して課題解決を図る力を育成しようとする姿勢が窺えます。一方、学習過程を見通した指導方法の改善や工夫については課題が見られました。今後は、GIGAスクール構想で導入されたICT機器を効果的に活用することにより、全ての学校において児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びをともに充実させていく必要があると考えます。

県教育委員会としましては、本調査結果の詳細な分析を行い、児童生徒のつまづきを踏まえた取組みとともに、「習得・活用・探究」のバランスのよい授業の実践を通して授業改善等がさらに進むよう、各市町村教育委員会とともに取り組んでまいります。

全国学力調査(小学6年)経年比較

全国平均正答率との差

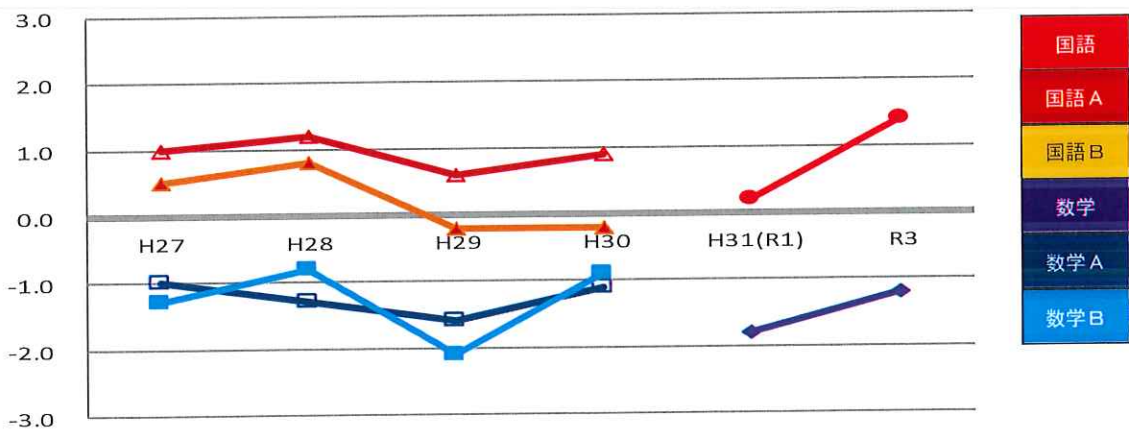


	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R3
● 国語					1.7 ~ 2.6	-0.2 ~ 0.7
国語A △	0.6	-0.5	0.7 ~ 1.6	-0.2 ~ 0.7		
国語B ▲	-1.8	-0.2	-3.0 ~ -2.1	-1.2 ~ -0.3		
◆ 算数					-2.1 ~ -1.2	-2.7 ~ -1.8
算数A □	-1.8	-1.3	-2.1 ~ -1.2	-1.0 ~ -0.1		
算数B ■	-2.9	-1.1	-2.4 ~ -1.5	-1.0 ~ -0.1		

※平均正答率について、全国値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、平成29年度以降のグラフの値は、全国との差の範囲の中心としています。

全国学力調査(中学3年)経年比較

全国平均正答率との差



	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R3
● 国語					-0.3 ~ 0.6	0.9 ~ 1.8
国語A △	1.0	1.2	0.1 ~ 1.0	0.4 ~ 1.3		
国語B ▲	0.5	0.8	-0.7 ~ 0.2	-0.7 ~ 0.2		
◆ 数学					-2.3 ~ -1.4	-1.7 ~ -0.8
数学A □	-1.0	-1.3	-2.1 ~ -1.2	-1.6 ~ -0.7		
数学B ■	-1.3	-0.8	-2.6 ~ -1.7	-1.4 ~ -0.5		

※平均正答率について、全国値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、平成29年度以降のグラフの値は、全国との差の範囲の中心としています。